

令和元年度

事 業 報 告

(平成31年1月1日～令和元年12月31日まで)

公益社団法人 競走馬育成協会

令和元年度 事業報告

公益社団法人競走馬育成協会

概況

令和元年の中央競馬はダービーや有馬記念を中心に 1 年を通じて順調に推移し、売得金は対前年比 103.1%、8 年連続で増加という良好な成績であった。

令和元年の 2 歳トレーニングセールについては、九州トレーニングセールが休止となったため、JRA ブリーズアップセールを除いた集計で上場頭数は減少したが、売却頭数は一定数を維持、売却率も高い水準で推移し、売却総額や平均価格といった要素が前年を大きく上回り、盛況な市場を維持しているといえる。

このような情勢の中、当協会は令和元年も様々な事業を展開してきた。

育成技術講習会については、東西のトレーニングセンターで実馬を使ったデモンストレーション形式の講習を平成 29 年より継続して実施している。一方、令和元年の北海道では飼料や栄養へのニーズに応える講演を実施して、いずれも好評を得ていた。

就業者参入促進事業（BOKUJOB）では、情報収集窓口であるホームページについて平成 30 年 11 月より魅力ある形にリニューアルしたことで、イベント参加者数の増加や本気度の上昇が実感できたと思われる。さらに、研修コース体験入学会の合同開催や初心者による馬のお世話体験会の新設、メインフェアや関西フェアの開催、広報相談コーナーの充実、牧場見学会や牧場で働こう体験会の実施、日本学校農業クラブ全国大会への広報参加等が 1 年を通じて間断なく運営された。

競走馬育成技術表彰では、会員育成馬の優勝する競走数との該当率が年々最高値を更新しており、会員牧場の育成技術の確かさが示されている。また、開催場表彰の対象となる重賞 2 歳ステークス 6 競走では 5 競走において会員の育成馬が優勝し表彰を受けた。

その他にも、修学奨励金交付、海外派遣研修、競馬関連機材の有効活用、利子補給、情報誌発行等の広範囲の事業を展開した。

1. 軽種馬の育成調教技術の向上に関する普及、啓発及び指導

1) 育成技術講習会の開催（公益事業）

軽種馬の生産、育成、調教に関する知識と技術の向上を目的とした講習会を当協会の全 5 地区で開催した。開催にあたっては広く一般にも参加を呼びかけ、日本中央競馬会（JRA）及び公益財団法人軽種馬育成調教センター（BTC）との連携・共催で実施した。

関東と関西地区では平成 28 年に講演形式で実施した「馬術と競馬の融合」という題材を発展させ、平成 29 年より導入した実馬を使ったデモンストレーション形式での講習会を、令和元年においても東西のトレーニングセンターで実施し、熱心な聴衆を惹き付けたいへんな盛況ぶりであった。講習の様子は協会のホームページから動画配信するとともに資料の添付も実施して、参加できなかった一般の方々に向けても広く普及に努めた。

北海道地区では牧場からのニーズに応え、飼料と栄養をテーマに講演を実施し、飼養管理の責任世代が多数参加してとても好評であった。

| | 開催日時 場所 | 講習内容 | 講師 | 参加者 |
|-----|------------------|---------------------------|---------------------|-----|
| 北海道 | 8月6日 新ひだか町公民館 | 育成馬のスポーツ栄養～競走馬に向けての栄養を考える | 松井朗氏／JRA 日高育成牧場 | 123 |
| 東北 | 9月5日 八戸家畜市場 | 競走期に影響を及ぼす若馬の疾患とは | 佐藤文夫氏／JRA 日高育成牧場 | 30 |
| 九州 | 9月26日 九州種馬場 | 競走期に影響を及ぼす若馬の疾患とは | 佐藤文夫氏／JRA 日高育成牧場 | 31 |
| 関西 | 11月14日 栗東トレセン | 馬のバランスを整えるとは何か | 戸本一真氏／JRA 馬事公苑 | 176 |
| 関東 | 11月27日 美浦トレセン | 馬のバランスを整えるとは何か | 戸本一真氏／JRA 馬事公苑 | 111 |

2) 競走馬育成調教技術表彰事業（共益事業）

競走馬の育成調教の技術向上を図り、育成調教者の基盤強化及び意欲増進を図るため、優秀な競走成績を収めた競走馬の育成調教者に対する表彰を実施した。

表彰対象538競走のうち338競走において会員の育成馬が優勝し表彰された。2歳新馬競走で82.3%、2歳重賞・リステッド競走で85.0%という非常に高い表彰該当率を維持しており、全体でも62.8%という高い水準となった。これは338勝という勝利数とともに、過去最高だった前年平成30年の表彰該当率と表彰該当競走数をさらに塗り替えたことになる。このことは各牧場の努力の成果であり、当協会育成牧場を経由することが新馬や重賞競走の勝利に結びつくことを表しているといえる。

| 対象競走 | 令和元年 | | | 平成30年 | | |
|------------------|------|------|-------|-------|------|-------|
| | 競走数 | 表彰件数 | 表彰率 | 競走数 | 表彰件数 | 表彰率 |
| 2歳新馬競走 | 243 | 200 | 82.3% | 234 | 176 | 75.2% |
| 3歳新馬競走 | 54 | 38 | 70.4% | 54 | 39 | 72.2% |
| 2歳重賞・リステッド競走 ※① | 20 | 17 | 85.0% | 18 | 16 | 88.9% |
| 平地重賞競走 ※② | 116 | 52 | 44.8% | 117 | 39 | 33.3% |
| 平地リステッド競走 ※② | 60 | 18 | 30.0% | — | — | — |
| 障害重賞競走 | 10 | 1 | 10.0% | 10 | 1 | 10.0% |
| 上記以外の平地オープン競走 ※③ | 35 | 12 | 34.3% | 77 | 24 | 31.2% |
| 計 | 538 | 338 | 62.8% | 510 | 295 | 57.8% |

※① 2歳重賞指定交流（地方競馬施行）4競走、2歳リステッド2競走含む

※② 2歳限定競走を除く

※③ 2歳及び3歳限定競走を除く

また、競馬施行場で育成協会会長賞表彰を実施する重賞 2 歳ステークス競走 6 競走（札幌・函館・新潟・小倉・京王杯・デイリー杯）では、5 競走で当協会会員の育成馬が優勝しウイナーズサークルにおける表彰を受け、2 歳重賞競走における会員の高い表彰該当率を裏付けた。

2. 軽種馬の育成調教に関する調査及び研究（公益事業）

軽種馬の育成調教技術の向上と牧場環境の改善を図るため、新入会の牧場について実態、人材、施設等に関する調査を実施しデータを蓄積した。一方、過去に実施した牧場経営等に関する調査報告については、引き続き当協会ホームページに掲載して情報発信している。

その他にも昨今の労働力不足の実態に鑑み、独自に外国人労働者について基礎的な調査を開始した。

3. 軽種馬の育成調教に係わる人材の確保・養成に関する支援（公益事業）

1) 生産育成調教牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材の確保を目的とし、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することによって就業者の参入を促進するため、当協会を中心に JRA・BTC・公益社団法人日本軽種馬協会（JBBA）・一般社団法人日本競走馬協会の 5 団体で牧場就業促進事務局（BOKUJOB 事務局）を構成して各種事業を展開した。

① 牧場就業促進ウェブサイトの運営と保守管理

BOKUJOB のウェブサイトは、平成 22 年に開局されたが、近年は訪問者数に減少傾向がみられていた。そこで、スマートフォンからの閲覧とアプローチが主体となり、若年層に魅力的なウェブサイト生まれ変わるため、BOKUJOB ウェブサイトを全面的にリニューアルし、平成 30 年 11 月にオープンした。

リニューアル後の基準に基づき訪問者数等を遡って集計し直したところ、延べ訪問者数・新規訪問者数ともに平成 28 年あたりから徐々に減少してきていたが、リニューアル以降の令和元年の訪問者数は増加傾向に転じており、リニューアル効果が見て取れた。また、スマートフォンからのアプローチを重視したこともあり、令和元年は訪問者数のうち 76%以上がスマートフォン利用者となっている。

| | 延べ訪問者数 | 新規訪問者数 | スマホ利用者数/内数 | スマホ利用率 |
|---------|---------|--------|------------|--------|
| 令和元年 | 138,613 | 84,616 | 64,592 | 76.3% |
| 平成 30 年 | 115,610 | 69,355 | 50,279 | 72.5% |
| 平成 29 年 | 133,912 | 81,357 | 54,151 | 66.6% |
| 平成 28 年 | 148,923 | 88,473 | 54,641 | 61.8% |
| 平成 27 年 | 160,488 | 87,994 | 51,302 | 58.3% |

| | | | | |
|---------|---------|--------|--------|-------|
| 平成 26 年 | 157,194 | 54,585 | 28,722 | 52.6% |
| 平成 25 年 | 107,935 | 28,345 | 11,494 | 40.6% |

※ 平成 30 年は 1~10 月の旧サイトと 11~12 月の新サイトの合計

② BOKUJOB メインフェア 2019（東京競馬場）

就職協定の変更や高校生の就職活動の動向を考慮して、平成 28 年からフェアを 6 月に集中開催することとしたため、令和元年もメインフェアは G I 安田記念施行週に同時期同場所で開催した。

少子高齢化による若年層人口の減少、有効求人倍率の上昇といった昨今の日本においては、どの業界においても労働力確保が深刻である。そのような逆風の中、令和元年は見学者への景品抽選を無くし、全体的来場者数の確保よりも本気度の高い対象者を重視した施策をもって、リニューアルホームページや SNS 等で積極的に広報展開した。すると対象参加者数が高校生や社会人を中心に前年より大きく増加し、結果的に来場者数全体も増加することにつながった。就職氷河期といわれた社会人転職希望層も多数参加し、年々目的に真摯な参加者が増え、滞在時間が長く本気度が高まるイベントとなった。

・ 6 月 1~2 日（土・日）東京競馬場 フジビュースタンド 1 階イーストホール

出展 32 牧場・JBBA・BTC・日本装蹄蹄協会・日本軽種馬青年部連絡協議会・静内農業高校教諭の進路指導・競走馬のふるさと案内所

| | 対象者 | | | | 保護者 学校関係 | 見学者 | 小学生 中学生 | 受付来場者 合計 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-------------|-----|------------|-------------|
| | 高校 | 大学等 | 社会人 | 計 | | | | |
| 令和元年 | 50 | 49 | 63 | 162 | 86 | 6 | 15 | 269 |
| 平成 30 年 | 38 | 48 | 35 | 121 | 30 | 82 | 21 | 254 |
| 平成 29 年 | 34 | 69 | | 103 | 44 | 48 | | 195 |
| 平成 28 年 | 50 | 73 | | 123 | 61 | 70 | | 254 |
| 平成 27 年秋 | 36 | 50 | | 86 | 34 | 200 | | 320 |

③ BOKUJOB 関西フェア 2019（阪神競馬場）

G I 宝塚記念施行週に開催日開催競馬場で実施される BOKUJOB 関西フェアは、関西地区での BOKUJOB 活動として定着してきた。このことから令和元年の関西フェアも、牧場との直接対話の場としてさらなる認知度の向上を見据え、同時期同場所で開催した。

メインフェアと同様、参加者の数より本気度を重視した施策により広報展開したところ、全体来場者数は横ばいであったが対象となる参加者数は社会人が大きく増えたことで著しく増加し、内容の充実したイベントとなった。

・ 6 月 22~23 日（土・日）阪神競馬場 アメニティホール

出展 10 牧場・JBBA・BTC・日本軽種馬青年部連絡協議会・静内農業高校教諭の進路指導

| | 対象者 | | | | 保護者 学校関係 | 見学者 | 小学生 中学生 | 受付来場者 合計 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-------------|-----|------------|-------------|
| | 高校 | 大学等 | 社会人 | 計 | | | | |
| 令和元年 | 34 | 28 | 77 | 139 | 74 | 6 | 25 | 248 |
| 平成30年 | 32 | 22 | 29 | 83 | 70 | 71 | 33 | 257 |
| 平成29年 | 38 | 40 | | 78 | 45 | 71 | | 194 |
| 平成28年 | 29 | 40 | | 69 | 48 | 57 | | 174 |
| 平成27年秋 | 32 | 37 | | 69 | 45 | 118 | | 232 |

④ 広報&相談コーナーとPRブース

広報&相談コーナーとしては、平成28年から乗馬に携わる関係者へBOKUJOB活動を拡大展開しており、より馬に係わる人々に牧場での仕事内容や生活等への理解を浸透させるため、令和元年も競馬場以外の以下の会場にブースを設置しBOKUJOB活動の広報や牧場業務に関する相談等を実施した。

| | 開催日 | 来場者 | | | |
|---------------|----------|------|-------|-----|-----|
| | | 令和元年 | 平成30年 | 29年 | 28年 |
| 御殿場インターハイ馬術会場 | 7月23~24日 | 52 | 45 | 20 | 32 |
| 宮崎育成牧場 馬に親しむ日 | 8月25日 | 20 | 49 | 12 | 18 |

また、フェアを開催する地域から離れた場所の潜在的ニーズの掘り起こしのために、各競馬場にブースを設置してBOKUJOB活動の広報や牧場業務に関する相談等を行なう活動を継続して実施した。

| | 開催日 | 来場者 | | | | |
|-------|------------|------|-------|-----|-----|-----|
| | | 令和元年 | 平成30年 | 29年 | 28年 | 27年 |
| 中京競馬場 | 7月6~7日 | 26 | 33 | 45 | 41 | 40 |
| 札幌競馬場 | 8月10~11日 | 17 | 70 | 36 | 32 | 45 |
| 小倉競馬場 | 8月31日~9月1日 | 51 | 74 | 43 | 36 | 42 |

一方、中山競馬場JRAブリーズアップセール・札幌競馬場北海道トレーニングセール・ノーザンホースパークセレクトセールといったセリ市場の際にPRブースを設置し、BOKUJOB活動の広報やPRを実施した。

さらに、競馬施設以外への新たなアプローチの糸口として、平成30年より日本学校農業クラブ全国大会にブースの出展許可を取り付け、令和元年は山形で開催された大会にPRブースを出展し、高校生や教職員関係者に向けてBOKUJOB活動の認知度向上のための広報を実施した。

⑤ 牧場見学会

関東関西それぞれの地区ごとに一般公募で参加者を募り、若手従業員との質疑応答等を交えた牧場見学会を土曜日に日帰りを実施した。令和元年は関東地区参加希望者が倍

増したが、平成 29 年以降は参加者希望者が可能な限り全員参加できるよう体制を整えている。

- ・ 関東地区 3 月 9 日 参加者 48 名
 協力：ビッグレッドファーム銚田、KS トレーニングセンター、松風馬事センター
- ・ 関西地区 3 月 16 日 参加者 41 名
 協力：信楽牧場、グリーンウッド・トレーニング、ノーザンファームしがらき

⑥ 夏休み牧場で働こう体験会

全国公募で参加者を募り夏休み期間を利用して、牧場での就業体験・体験乗馬・BTC 研修体験学習・JBBA 研修見学・スタリオン見学等のカリキュラムを 5 泊 6 日で実施した。なお、平成 28 年からは牧場体験滞在を 2 泊とし、体験受入牧場を静内地区にも広げており、令和元年も同様の内容で実施した。

- ・ 7 月 28 日～8 月 2 日 参加者 17 名
- ・ 体験受入牧場：杵臼牧場、宮内牧場、谷口牧場浦河育成センター、様似町軽種馬共同育成センター、グランド牧場、岡田牧場目名共同トレーニングセンター

⑦ 研修コース体験入学会

新たな試みとして、競走馬の牧場で働くことに興味がある者を全国公募して、夏休み期間中の 3 泊 4 日、BTC と JBBA がそれぞれ独自に開催していた牧場技術者研修コース体験入学会を合同で開催した。

研修見学・体験乗馬・厩舎作業・スタリオンや牧場見学等に加えて、教官や研修生との交流、双方の施設や関連施設の見学等をまとめて実施することで、参加者の負担を軽減し、BTC と JBBA の技術者養成研修への受験者獲得につながるよう新規に開催したことで、研修機関と参加者の双方から好評であった。

- ・ 8 月 26 日～29 日 参加者 16 名

⑧ サラブレッドのお世話体験会

馬に興味があるものの馬に触れたことが無い方のために、実際の厩舎作業や馬の手入れを通じて馬への親しみや仕事のイメージを掴むきっかけとなるよう、馬に接する体験イベントとして新たに開催した。

厩舎作業・引き馬体験・馬の手入れ等の体験に加えて、馬学・馬の生産育成や就業の紹介・競馬博物館見学等、馬と触れ合う 1 日を体感してもらうようなイベントとして開催し盛況であった。

- ・ 9 月 23 日 参加者 17 名

2) 担い手育成事業

生産育成調教の牧場で働く意欲ある人々に必要な馬に関する知識と技術を習得させ、牧

場就労担い手としての能力を開発し向上させるため、研修機関への修学や海外研修への派遣を援助した。

① 修学奨励金交付事業

BTC が実施する育成調教技術者養成研修の平成 31 年度（令和元年度）入講生 5 名に対して、修学奨励金を交付した。その後 BTC 入講生のうち 3 名については途中退所となったため、修学奨励金の返還を受けた。

② 生産育成技術者海外派遣研修事業

生産育成技術者養成機関の卒業生を対象とした研修は、BTC からの推薦者 4 名と関西支部長からの推薦者 1 名をアイルランド競馬学校（RACE）に約 3 か月（5 月 9 日～8 月 5 日）派遣した。

長期研修としては、当協会会員牧場の従業員 3 名について、1 名をイギリスに約 3 か月半（5 月 14 日～8 月 28 日）、1 名をアイルランドに約 2 か月（7 月 25 日～9 月 23 日）、1 名をオーストラリアに約 2 か月（9 月 23 日～11 月 30 日）派遣した。

短期研修は、会員及び会員牧場の従業員等を対象にアメリカ合衆国派遣を予定していたが、参加希望者が最低催行人数に至らず令和元年は中止となった。

4. 軽種馬の育成調教に係わる競争力の向上に対する支援（共益事業）

1) セリ市場の振興

若馬育成調教の成果がセリ市場取引に反映されるように、2 歳トレーニングセールへの地域団体による後援等を実施した。

2) 育成調教施設等の整備に対する助成事業

① 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設の整備等を目的に会員が借り受けた資金の利子負担軽減を図るため、公益財団法人全国競馬・畜産振興会から軽種馬生産育成強化資金を受け、令和元年は新規案件 2 件について銀行申請手続から融資協議会を経て利子補給を開始するとともに、継続案件 9 件についても利子補給を実施した。

② 競馬関連機材等有効活用事業

JRA の施設等で使用を取りやめた競馬関連の機器・資材などを有効に活用するため、令和元年は 2 回の抽選会を実施し、馴致用発馬機 3 台、散水車 2 台、ユニモグ 2 台、トラック 2 台、トラクター 3 台、トラクターミニショベル 2 台、ローラー 1 台、レーキ 1 台、バーチカルモア 2 台、動力噴霧器 1 台、ハロー類 10 台、馬場柵 3 セットの合計 32 件について募集斡旋を実施した。

③ 畜産近代化リース事業

公益財団法人畜産近代化リース協会の行う畜産リース事業について、令和元年は新規案件の申請はなされなかった。

5. 軽種馬の育成調教に係わる国際交流（公益事業）

競馬先進国との情報交換を進めるとともに、国内や近隣諸国に対して軽種馬の育成調教技術の指導、普及等を通じて国際交流を推進するため、海外派遣研修報告書を冊子にまとめ発行した。また、情報交換のため関係団体で構成される海外流通促進連絡協議会に参加した。

6. 軽種馬の育成調教に関する情報発信（公益事業）

軽種馬の飼養管理及び育成調教技術の普及並びに改善向上に役立つ情報を提供するため、令和元年も機関誌「いくせい」の57号（10月1日付）を発刊した。

また、協会ホームページ等を利用して、育成技術講習会の内容等の育成調教に係わる情報を広く一般市民にも閲覧可能な形で発信した。

7. 協会の運営、組織、その他必要な監査等

1) 総会の開催（定時総会）

2月15日 14:00～ JRA本部9階 第5会議室

議案：平成30年度事業報告及び財務諸表について

平成31年度会費等の額及び徴収の方法について

理事及び監事の選任について

2) 理事会の開催

① 第1回理事会（定例）

1月25日 14:00～ 新橋分館5階会議室

議案：平成30年度事業報告及び財務諸表について

平成31年度定時総会の開催について（日程、場所、提出議案）

総会における議決権行使書及び委任状について

業務委託費の配分方法について

② 第2回理事会（臨時）

2月15日 13:30～ JRA本部9階 第4会議室

議案：平成31年度定時総会の委任状の取り扱いについて

③ 第3回理事会（臨時）

2月15日 15:30～ 新橋分館4階会議室

議案：会長理事、副会長理事及び常務理事の選定について

④ 第4回理事会（定例）

12月6日 14：00～ 新橋分館 4階会議室

議案：令和2年度事業計画及び収支予算等について

職員就業規則、旅費規程の改正について

⑤ 書面理事会（定款第41条）

3月7日 入会の承認 1件

5月10日 入会の承認 2件

12月5日 入会の承認 1件

3) JRA との育成等に関する懇談会

9月27日 13：30～ JRA 本部9階 第3会議室

懇談内容：セリ市場の動向について

暑熱対策（熱中症）について

育成牧場における人材確保と養成（BOKUJOB）について

育成技術表彰事業について

育成牧場の基盤強化について

外国人労働力について

競馬学校厩務員課程の受験動向について

その他

4) 協会の組織

① 会員数の動向

| | 北海道 | 東北 | 関東 | 関西 | 九州 | 計 | 賛助会員 |
|-------------|-----|----|----|----|----|-----|------|
| 平成30年12月31日 | 85 | 10 | 44 | 29 | 17 | 185 | 8 |
| 増加 | 1 | | 2 | | 1 | 4 | 0 |
| 減少 | 2 | | | | | 2 | 0 |
| 令和元年12月31日 | 84 | 10 | 46 | 29 | 18 | 187 | 8 |

② 役員の方角

平成31年2月15日の定時総会において役員の方選が行われ、全員が留任した。

平成31年2月15日以降の役員

| | | |
|-------|------|-----------|
| 会長理事 | 栗田晴夫 | 非常勤 |
| 副会長理事 | 佐藤光信 | 常勤 常務理事兼務 |
| 副会長理事 | 飯田正剛 | 非常勤 |
| 理事 | 荻野豊 | 非常勤 |
| 理事 | 高橋司 | 非常勤 |
| 理事 | 諏訪豊蔵 | 非常勤 |

| | | |
|----|-------|-----|
| 理事 | 沖崎誠一郎 | 非常勤 |
| 理事 | 中内田克二 | 非常勤 |
| 理事 | 柏木務 | 非常勤 |
| 理事 | 宮島成郎 | 非常勤 |
| 理事 | 織田信美 | 非常勤 |
| 監事 | 安達正奉 | 非常勤 |
| 監事 | 杉野繁治 | 非常勤 |

③ 職員等の動向

| 平成30年12月31日 | 就任・転入 | 退任・転出 | 令和元年12月31日 |
|-------------|-------|-------|------------|
| 3名 | 2名 | 2名 | 3名 |

5) その他監査・検査等

○ 日本中央競馬会（JRA）による監事監査

10月3日 新橋分館4階 応接室

内容：競走馬育成協会の事業について

○ 地方競馬全国協会（NAR）による監査

11月22日 新橋分館4階 会議室

内容：競走馬生産振興事業・軽種馬経営指導研修（人材養成支援）について